

第37回学習会を、平成24年4月13日(金) 19:00~20:00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第37回目の内容

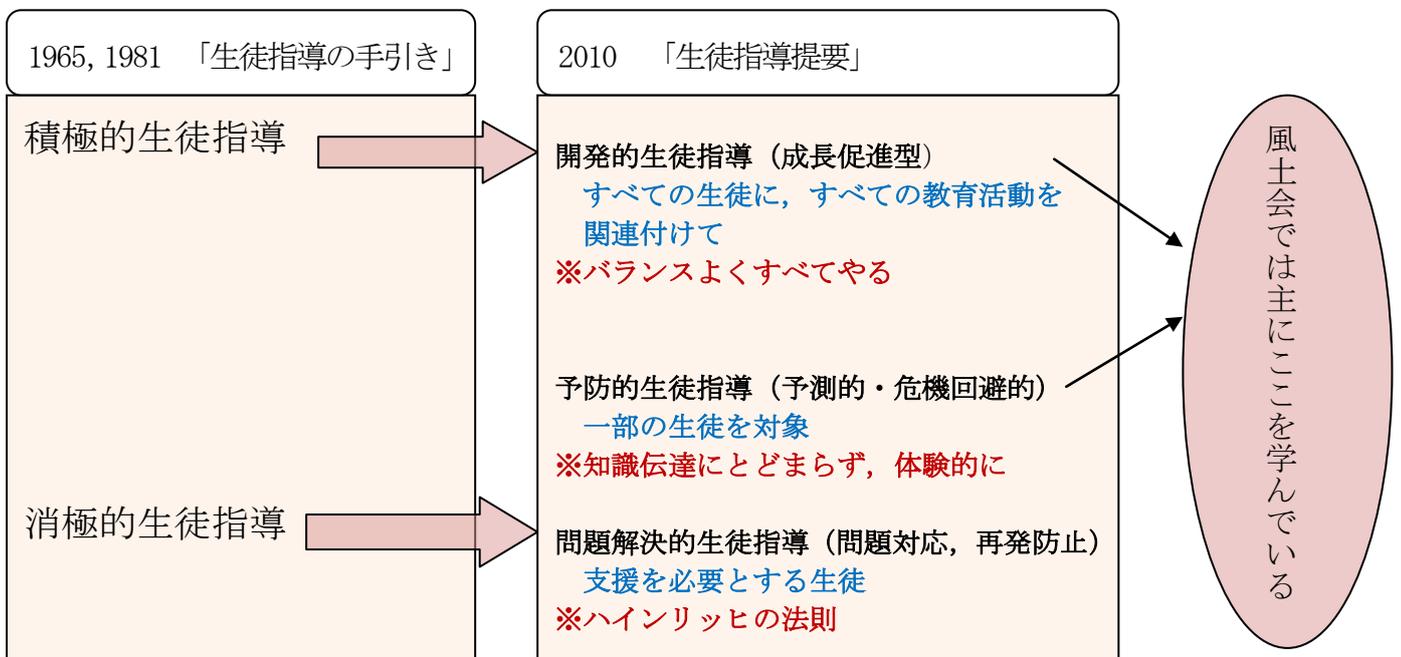
講師 重枝一郎先生

- 1 予防・開発的生徒指導
- 2 「予防・開発的生徒指導の実際」プレゼンテーション
- 3 イメージボードゲーム(演習1), ジャンケントーク(演習2)



## 予防・開発的生徒指導

### 1 生徒指導の分類



### 2 開発的生徒指導のワード例

○主体的に.....

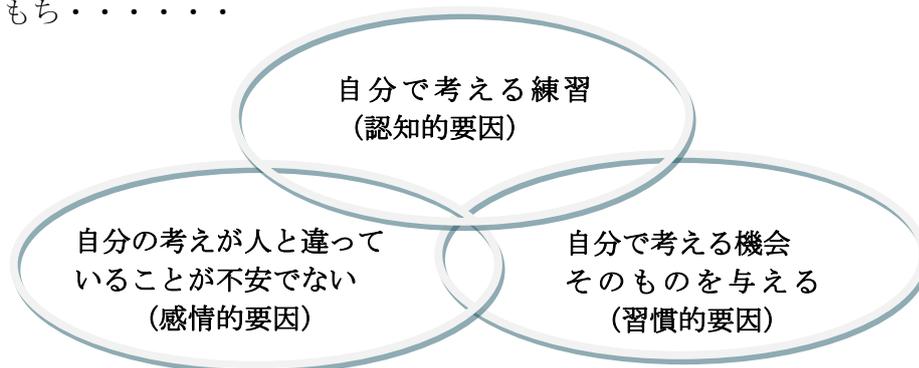
主体的  
(アサーティブ)



依存的

(攻撃的・受身的) ※両方に共通するワードは「不安」

○自分の考えをもち.....



### 3 初頭効果をねらう・・・そして→ 4 微調整する力

(ビデオ)

「ライフポート」「人間知恵の輪」

※ゲーム的な非言語エクササイズ

不安をもつ生徒が対人に関する壁を低くする

精度の高い2本のアンテナ

ルール違反

「ルールは何だった？  
(質問)」

「私語が多いと話しくく  
て困る

(対決アイメッセージ)」

ルール遵守

「ありがとう、助かるよ  
(肯定アイメッセージ)」

(演習) ①イメージボード ②ジャンケントーク

**最初の体験は記憶に残りやすい**

グループワーク, エンカウンター, ソーシャルスキル TR は効果あり

#### 解 説

「消極的」「予防的」「開発的」の3つをバランスよく実践

学力を上げる実践も不登校を減らす実践も、全部一緒であり、何かだけがよくなることはないのです。

「学力が上がれば不登校も減る」のであり、教育活動はすべて関連しています。

消極的生徒指導と呼ばれる、問題が起きた後の事後指導は、生命を守る指導です。予防・開発的生徒指導は、先手で行う指導です。「予防的」とは危機予防であり、一部の生徒を対象とします。「開発的」とは、問題行動を予測してではなく、すべての教育活動をバランスよく行うことであり、対象生徒は全員です。

「ハインリッヒの法則」は「割れ窓理論」にも通じています。掲示物が乱れていたり、ゴミが落ちていたり、掃除で手を抜いていたり・・・それぞれの「予兆」を見逃さない「教師」は、意図的に「開発的」生徒指導を仕組むことができます。

「段階的」「継続的」「計画的」

「問題解決的生徒指導」は、当然必要です。しかし、「開発的生徒指導」は教育効果があります。ポイントは、「段階的」「継続的」「計画的」にすべての教育活動を「関連付ける」ことです。学校の1日の大半は「授業」です。授業に「生徒指導」を関連付けていきます。

「主体的に」って具体的には？

学校の「研究テーマ」には、よく、「主体的に」「自分の考えをもって」・・・等のワードが用いられています。では、「主体的に・・・」って具体的にはどのような子どもの姿なのでしょう？

具体的に考えるひとつの発想として、「その反対」を考えることで、言葉の意味を自分なりに解釈し、明確にすることができます。例えば、「主体的」の反対は「依存的」だと考えます。では、「依存的」ってどういうことかな？さらに発想を広げます。「受身的」というのも「依存的」だなあ・・・。「受身的」とは、自分の気持ちや考えを言わず、人任せにする姿です。では、その反対の「攻撃的」はどうでしょう。「攻撃的」とは、自分の考えを押しつけて強く主張する子どもの姿です。アグレッシブに強く発言できれば「主体的」といえば、そうではなく、相手のことを考えていない姿は「主体的」ではないと解釈できます。

このように「主体的」の意味を考えていくと、「関係性」の中での「主体的」という発想に行き着きます。つまり、「アサーティブ」という発想です。アサーティブな姿が、関係性の中での「主体的」な子どもの姿です。『相手の気持ちを想像しながら自分の考えをもって、折り合いをつけながら建設的に物事を発展させる』姿です。

「受身的」「攻撃的」に共通するワードは「不安」です。そう考えると、「主体的」は「安心」，「安心」だと「主体的」になれる・・・そして、心に余裕が生まれる・・・次々と発想が生まれます。

### 「自分の考えをもつ」ために何が必要か？

「自分の考えをもつ」ためには・・・

「自分の考えをもてない」要因は何か？と発想すると・・・

- ・子どもは、「自分の考えが人と違うのが」不安
- ・自分の意見をもとうとしない→自分の考えをもつ「機会」や「場」，「安心感」を与える  
→練習が必要！！

「自分の考えをもつ」練習として、授業に関連付けながら「エンカウンター」をすることが、子どもにとって「自分の考えをもつ」練習になるのです。このように、教師が自分なりに納得しながら「筋を通して」実践します。それが、「開発的生徒指導」です。

例えば、「開発的生徒指導」という言葉だけで考えても、腑に落ちないのですが、自分の実践の何とつながると「発想」すると、言葉の意義が明確になります。授業と関連付けてエンカウンターをすることも「開発的生徒指導」と考えると、自分が日常的に行っている指導の意義が、自ずとわかってきます。何も無駄ではないと、教師も「自信」をもつことができます。

### 初頭効果をねらう！

最初から、組織的な素晴らしい学級集団ができるはずはありません。そんな、夢のような話はないのです。教師は意図的、段階的に働きかけます。

- ①教示的に「モデル」を示します。上級生が示すのも効果的です。
- ②説得的に「話して」イメージをもたせます。「キーワード」を話せば、子どもがイメージできるように合言葉を共有します。
- ③参加的に「一緒に行動」します。さりげなく一緒に行動しながら、そのよさを実感させます。
- ④委任的に「させてみます」。その過程や結果を「ほめて、強化」です。

1年間の学級経営の中で、このサイクルを細かく繰り返します。行ったり来たりします。「行事」を活用すると、効果大です。

ここでのポイントは、「微調整する力」です。これが、教師の力量です。例えば、中学校では4月に自然教室を行う学校が多いのですが、そこで教師が、「強制性」だけで指導すると、集団は退行していきます。子どもの様子から教師が「微調整」して、①～④のサイクルを活用します。

微調整するためにも、教師は「精度の高い2本のアンテナ」をもっておきます。

### 対決アイメッセージ

「私は・・・」で語ると、相手が少し考えます。相手が気付く場をさりげなく示すことになります。教師は、子どもの問題行動にはすぐに気付くのですが、よさをほめることは少ないように感じます。肯定アイメッセージを意識的に発信します。

### 登山にたとえると・・・

- 開発的生徒指導 → 地図。体力づくり。
- 予防的生徒指導 → 早めに休憩をとる。荷物を軽くする。
- 問題解決的生徒指導 → 動けなくなったから、担架で運ぶ。おんぶする。

## よさを引き出す+すべての場面で

「予防的」とは、子どものよさを引き出す生徒指導です。

「開発的」とは、すべての教育活動ですすめる生徒指導です。

人が集まる学校での生徒指導は、さまざまな問題に立ち向かう実践力育成と、学び合う肯定的な人間関係づくりを全教育活動を通して行っていきます。

「予防・開発的生徒指導」は、集団体験を促し、相互作用を重視した学びの場を設定することが、ポイントになります。それは、あらゆる場面で効果的に作用します。

## 教師の勢力資源（なめられない先生）

やかましく言わなくても「なめられない先生」がいます。人を引きつける先生です。そういう先生は、「授業がうまい」「教え方がうまい」「人間として魅力的」等の理由があります。罰・強制性は誰にでもある勢力です。子どもにとっては、「教師」「大人」というだけで、その勢力を感じるのです。それを勘違いすると、ただの学ばない教師になり、少しはあった「人間性」や「役割の魅力」も低下します。

## インナールールとアウタールール

インナールールとは心の中の内的なルールのことで、信頼関係のことです。アウタールールとはいわゆるルールのことで、集団の規律のことです。まずは、すべての教育活動で、生徒のよさを引き出す指導で「信頼関係」を築きます。それが、予防・開発的生徒指導です。すると「インナールール」が育ちます。インナールールが育つと、アウタールールを押しつけられていることを意識しつつも、不快感のないものとして受容し、自然な形で受け継がれていきます。

## 学年集会は効果が大きい

担任が学級に誇りをもつのはよいのですが、学年全体で共通理解・共通実践すると、大きな効果が期待できます。教師は  $A=MVP$  で学年風土をつくります。

Aはアクション＝教師の行動です。予防・開発的生徒指導をする教師を表します。

Mはミッション＝使命感です。子どもの幸せを喜び、不幸を悲しみ、共に学び、成長する教師のつとめです。

Vはビジョン＝見通しです。時間軸（過去・現在・未来）での取組や空間軸（グループ・クラス・学校・地域・社会）での取組を関連付けて、すべての教育活動において相互作用をねらいます。

Pはパッション＝情熱、ポジティブメッセージを発信できる教師です。



## 実践ビデオ 「ライフポート」「人間知恵の輪」

### ライフポート

新聞紙を船に見立て、乗れそうもない人数で乗る演習です。お互いスキンシップをとることで、安心感が醸成されます。これは、エンカウンターの授業といえます。学級開き等、最初の体験は記憶に残りやすいので、このような授業は効果的です。これを「初頭効果」といいます。

ビデオでの実践は、体育会に向けて、1，3年生合同集会で行っています。入学したばかりの1年生に対して、3年生にミッション（使命感）をもたせています。また、この集会以降にもどのように1年生を育てていくのかビジョン（見通し）をもたせています。3年生は熱心に1年生を指導し、その過程でポジティブメッセージを発信するよう、意識させています。教師主導でも生徒主導でも、よい学校文化をつくる行動は、A=MVP です。

中学1年生より3年生の方が体は大きいのに、新聞紙にたくさん乗ります。危ないので肩車は禁止にしますが、おんぶはOKです。非言語コミュニケーションは生徒にとって、不安感が少なく取り組みやすいと思います。とにかく、ひっつかせてスキンシップをとらせませす。不安げな表情が、どんどん変化していきます。子どもは本来、体をつかった遊びが大好きなのです！

このように、最初の出会いは「信頼」をテーマとして、スキンシップを伴う活動を取り入れると効果的です。

### 人間知恵の輪

3年生が4，5人で手をつなぎあって輪になり、手と手の間をくぐってつくった「知恵の輪」を1年生がほどこきます。次に、1年生が作った「知恵の輪」を3年生がほどこきます。

このような活動をした後は、整列練習を入れます。それも、黙って整然と整列させませす。お手本を示すために、3年生の間に1年生を整列させませす。このように、「動」と「静」の活動をセットにして、信頼関係「リレーション」「インナールール」「エンカウンター」と、しつけ「マナー」「アウタールール」「ソーシャルスキル」を同時に学ばさせませす。これを、教師主導だけではなく、生徒主導の時間も織り込み、生徒に全体評価をさせませす。その後、リーダーを集めてミーティングを行い、教師が評価させませす。よかったところは、ほめて強化させませす。すると、生徒の「主体性」が生まれませす。「やらされる活動」ではなく、「自分たちが主体的にする」活動になるのです。

## 教師の専門性は「異質をつなぐ力」「トータル教育」「教科を越えた指導力」

勉強だけを教えるのなら、塾の先生でもできますが、たくさんの人が集まる学校では、「つなぐ力」が教師の専門性として求められませす。異質の境界線上に、教育の活力の源があるのです。何のために何とつなぐ、「つながり学習」を企画・運営するのです。そのミッションとビジョンをもち、ポジティブにアクションを起こさせませす。

そのひとつのアクションとして、エンカウンターでは「認め合う」、ソーシャルスキルでは「安心できる行動をつくる」、GWTでは「協力のよさ、他者のよさ、自分のよさをつくる」と定義して、トータルな教育を実践させませす。しかし、その授業は「小手先のエクササイズ」と定義させませす。授業が、学校生活の日常場面で、どんな風に生かされるのですか？日常につなぐ、振り返ることで、「小手先のエクササイズ」が「意義深い授業」に変わっていくのです。

例えば、「あいさつ」が日常的に、学校内でも学校外でも、地域でもできているか？それができていれば、受験や面接にも活かせませす。

「学級目標」を決めたけれど、それが日常でも意識されているか？飾りになっていないか？学級目標を決めたときに、教師がねらいとビジョンをもって「契約」しておけば、タイミングよく「再契約」ができてませす。最初にきちんと契約していなければ、再契約もできません。1年間の中で、集団は必ず「退行」するポイントがあります。6月、10月などです。そこで、「再契約」です。「ハインリッヒの法則」＝ちょっとした兆しを見逃さない！渴をいれるタイミングを教師はねらっておくのです。

日常的に教師は、細やかに働きかけ「世論をつくる」のです。それが、「教科を越えた指導力」＝教師に必要な専門性です。

## 演習1 イメージボード

白と黒の碁石があるとイメージします。えんぴつをもたずに、手をひざに置いて、目だけで左図のボードを見て、答えを出します。このゲームを授業に関連させます。

まずは、ゆっくりと先生が指示を出します。これは、小学校の授業だと説明します。

「白、右に2。黒、下に1。白、下に1。黒、右に1。白、左に2。黒、下に2。白、上に1。黒、左に1。白、右に3。黒、上に1」これを、風土会に参加した先生方が体験しました。

「できた人?」「はい!」全員の先生の手が上がります。「すごい!」重枝先生にほめられて、うれしい気持ちになります。先生の話をよく聴いていたらできますね!授業と同じです、と関連付けます。次は、先生の指示が急に速くなります。これは、中学生の授業だと、イメージさせます。

「目を閉じて、プリントは裏向けて、スタートです。白、右に1。白、下に1。黒、下に3。白、下に1。黒、上に2……」  
「できた人?」少し減りました。「スピードは速くなるけど、よく聴いていたらできます。ただ、小学生はできない……」

3セット目です。2セット目と同じスピードで指示がでます。「白、下に2。黒、右に2……」その途中で、ガタガタと大きな物音!びっくりしたところに、「そういえば、今日の給食は何でした?」重枝先生が突然、給食の話題を出し、頭が混乱します。「白、右に1。黒、下に1……」また、平然と指示が出ます。「できた人?」当然、正解者は減りました。

「授業中におしゃべりや雑談をしたり、ざわざわしていたりすると、思考が中断される」ことを、体験的に実感できました。これは、小学生、中学生にも体験させ、「授業」に関連させると効果的です。

4セット目は、1回目のように全員が「正解」して気持ちよく演習を終えるようにします。「人の話を聴くと、人生の80%は成功する!」という話を織り込み、授業規律について、子どもたちに考えさせます。

○●			



## ジャンケントーク

じゃんけんをして、指の数を足します。例えば、グーは0、チョキは2。パーは5。1の位の数字の話題で、話をします。

- 0 : あなたの学校で自慢できること
- 1 : あなたの家族構成
- 2 :好きな食べ物と、それにまつわる話をひとつ
- 3 : これまでの経験でうれしかったこと
- ・
- ・

小学校では、「聞き方、あいうえお」等、標語をつくっているところもあります。

「**あ**いてをみて」「**い**っしょうけんめい」「**え**なずきながら」「**え**がおで」「**お**わりまで」

このようにゲーム感覚で、自分のことを話す練習を積み上げます。その先に、「自分の考えをもち、自分の意見を言うことが不安ではない」子どもに育つと考えます。

## 本日のキーワード

- 積極的生徒指導→開発的生徒指導（成長促進型）
- 消極的生徒指導→予防的生徒指導（予測的・危機回避的）問題解決的生徒指導（問題対応、再発防止）
- 主体的（アサーティブ）←→ 依存的（攻撃的・受け身的）
- 初等効果をねらう・・・→そして、微調整する力

## ♪ 学習会に参加された先生方の感想 ♪ （参加人数 38名）

・初めて参加させていただきました。理論と実践がつながっているお話で、大変勉強になりました。自分の学級経営も振り返る、とても有意義な勉強会でした。また、来月も参加します！

・体験させることで、生徒の理解も深まると思いました。感受性が子どもに比べると低くなった大人の私でも実感したのですから、子どもはもっと敏感に受けとめると思います。再契約のお話も印象的でした。再契約をするためには、しっかりと最初に契約する必要があることや、ハインリッヒの法則のように細かく注意していくことが大切だとわかりました。

・学年が始まったばかりで、集団づくりや学級の中での信頼関係を深められる活動を、学年会で考えています。人と違った行動をする子どもを攻撃する傾向のある学年なので、「タイタニック」や「人間知恵の輪」のような肌と肌が触れあう活動を実践してみようと思えます。

（理論を学び、よさを実感することで、実践しようと動機付けられるのは、先生も子どもも同じです！ぜひ、ここで学んだ話を子どもと共有しながら、どんどん実践してください！！）

・「微調整する力」は教師の経験からにじみでてくる部分でもあると感じました。ただ、意識して得る部分も大きいと思うので、常にアンテナを立てて、スルーしないようにしたいです。

・本当に勉強になりました。全ての内容が、今の自分の学級の様子や生徒とオーバーラップして、早く学校で様々な話をしたいと思えました。帰ってノートの整理をします。また、今週末にある授業参観で、イメージボードゲームをしようと考えていたので、タイミングがよすぎて神に感謝してしまいました。何度でも話を聴き、勉強したいと思えます。

・今日の学習会で一番心に残ったのは、やはり演習でした。普段、子どもたちに「授業中のおしゃべりはダメ！」とか、違う話に脱線したり・・・頭ではそれはいけないことと分かってはいたのですが、なかなか徹底することができていませんでした。でも、今日の演習で、「物音をたてる」「スピードがはやい」等では、なかなか集中しづらくて、子どもの気持ちがよく分かりました。もう一つは、グループでのエンカウンターで「よさをほめて強化していくと自然と協力する姿が生まれてくる」ということでした。子どもをほめて伸ばしていこうと思えます。できる限り「風土会」に参加して、たくさんの子どもたちへの教育に生かしていきたいと思えます。

・小学校の担任をしていますが、「つながり学習」は小学校でも絶対に必要だと感じました。今年初めて6年生の担任になりましたが、「チーム6年」という名前でもう2回、学年集会を行っています。教師同士がタグを組み、高め合う大切さを再確認しました。今日、教えていただいた話やゲームを参考にしながら、子ども同士をつないでいきたいと思えます。

・いつも「がんばろう！」と刺激を受けるお話をありがとうございます。今日は特に、小手先の授業で終わるのではなく、フィードバックを行うことで、意義深い授業にかえるというお話に感銘しました。これからの集団づくりに生かしていきたいです。

（毎回のことですが、「風土会」のどこに感銘し刺激を受けるかは、参加している先生次第なんだと、感想を読みながら感じています。だからこそ、1時間という短い時間ながらも、多様な内容を提供できるように、感性を磨いていきたいと思えます。参加してくださる先生方に刺激を受け、元気をいただいています！）